

第19回世界歴史都市会議報告 ー於スロベニア共和国リュブリャナ市ー

基調講演

発表タイトル「都市再生の推進要因としての公共空間の再整備と歩行者優先化」

講演者 ヤネス・コジェリ（建築家、元リュブリャナ市副市長）

はじめに

リュブリャナの都市は、古代ローマ、ゲルマン、スラブの歴史と文化が交差する中で、衰退と復興を繰り返しながら形成されてきました。2006年からの16年間にわたりリュブリャナ市が、重要建築物や公共スペースを修復・再生した取組について紹介されました。

2006年以前のリュブリャナ:衰退と危機感

ポスト社会主義から自由市場経済への移行期にあたり、産業の衰退、中心市街地の空洞化、市民の郊外への流出といった深刻な問題を抱えていました。

都市再生戦略:公共空間の再整備と歩行者優先化

これらの課題に対し、公共空間の再整備と歩行者優先化を軸とした以下の都市再生戦略を展開しました。

1. 歴史地区の保全と再生
2. 公共空間の再整備
3. 交通政策の転換

まとめ

リュブリャナ市では、周辺の歴史的建造物を体系的に再生させていくための推進要因として、公共スペースやインフラの再整備を行いました。都市計画、景観デザイン、建築デザイン、交通計画などを統合的に考慮することで、効果的な都市再生の実現へとつながり、公共空間の再整備と歩行者優先化が、都市再生の重要な推進要因であることが示されました。これらの取組の結果、リュブリャナ市は短期間で目覚ましい成果を達成し、2021年にはブレチニクの建築物も含めユネスコの世界遺産に登録されました。

写真のキャプション

- I. 新規インフラ：レンタサイクル
- II. 再整備：新舗装+環境整備
- III. 新しい橋の道路開通がきっかけとなり、産業遺産であるチュクラルナ製糖工場が再生された。
- IV. 自動車通行禁止令：施行前ー施行後

基調講演で使われたプレゼンテーションは、こちらの二次元コードから閲覧できます。（英語）



専門家会議

発表タイトル「文化遺産の劣化を防ぐための持続可能なモビリティ」

講演者 マテフ・チェリク・ヴィドマル（スロベニア文化省事務次官）
ロク・ジニダルシッチ（リュブリャナ市副市長・准教授）

概要

専門家会議では、リュブリャナ市の文化遺産保全と持続可能な都市開発における課題と解決策について議論が行われた。とりわけ、近年再び脚光を浴びるようになったリュブリャナを代表する建築家、ヨジェ・ブレチニクの建築群と近代的な公共空間とをつなぐ、リュブリャナ市街地の再開発において、観光客増加と市民生活の質向上という相反する課題の共存について問題提起が行われた。

主な論点

ブレチニク建築群の保全と活用:
近代的な公共空間と融合させることで、歴史的文化的建築物をさらに際立たせることに成功した。

持続可能なモビリティ:

徒歩ゾーンの拡大や自転車利用促進など、持続可能なモビリティ政策を進めている。特に、リュブリャナツァ川沿いの徒歩ゾーンは、住民の行動や生活様式にも変化をもたらした。今後は、景観や公園などの公共空間と融合させながら、まちの周辺にも徒歩ゾーンを拡大していくことが示唆された。

公共サービスの充実:

公共住宅の供給や交通規制、公共空間の分散化、また大学と協働したキャンパスの新設などを通じて、住民生活の維持に努め、人口流出を防ぎ、新たな人口を受け入れようとする事例が紹介された。

国際協力と資金調達:

他のヨーロッパ諸都市と連携し、文化遺産保全や持続可能な都市開発に関する情報交換や協力を進めている。資金調達においては、国やEUからの支援に加え、市の予算も活用されている。



世界歴史都市連盟事務局

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
[lhcs@city.kyoto.lg.jp](https://city.kyoto.lg.jp) <https://www.lhc-s.org>

ユースプログラム

「世界子ども絵画コンテスト」

世界歴史都市会議では、歴史や伝統を未来へ受け継ぐ子どもたちが自国の文化や世界に関心を向け、相互理解と文化交流を促進することを目的に、ユースプログラムを開催しています。第19回会議では、「歴史を守り、未来を想像する」をテーマに、加盟都市に在住の7歳から15歳の児童を対象として、絵画作品（代表作品各1点）の募集がありました。会議会場のセンターログでは、会議開催期間中、加盟都市から提出された代表作品10点と、リュブリャナ市在住の児童による作品20点が展示されました。

「オープニングセレモニー」

会議2日目には、ユースプログラム「世界子ども絵画コンテスト」のオープニングセレモニーが開催され、リュブリャナ市文化局のマテヤ・デムシッチ氏とリュブリャナ市の小学生2名が司会進行を務めました。会議出席者に加えて、リュブリャナ在住の2年生から7年生の生徒も同セレモニーに出席し、リュブリャナ市と加盟都市の優れた作品に、記念品が贈られました。

各都市代表作品

1. 「マスレの未来」 ディアナ・ノワレ 8歳 マスレ（イラン）
2. 「四川風」 チェン・リンユン 11歳 成都（中国）
3. 「未来の京のまち」 櫻澤采穂 7歳 京都（日本）
4. 「十二婆娑陣」 ワン・ユーチェン 12歳 台南（台湾）
5. 「時間の軌跡」 プー・イーシン 14歳 西安（中国）
6. 「ひと目でわかるカシャー」 ハスティ・ファーテヒ 15歳 カシャー（イラン）
7. 「石を積む」 イェクタ・ペーニアファル 10歳 テヘラン（イラン）
8. 「公州公山城」 カン・ジュウン 14歳 公州（中国）
9. 「過去の歴史遺産を守り、未来を描く」 メーラナ・ジャファリ 10歳 シーラーズ（イラン）
10. 「大好きな私の故郷-都江堰」 ヤン・シャオメン 12歳 都江堰（中国）

「第19回世界歴史都市会議 2024年度世界歴史都市連盟総会・理事会 報告書」のデジタルブックを、こちらの二次元コードから閲覧できます。（日本語）



2026年第20回世界歴史都市会議開催都市 姫路市紹介

市の概要

姫路市は、日本の兵庫県南西部に位置する人口約52万人の都市です。西日本の空の玄関口である関西国際空港からは、陸路で約2時間です。街の中心には400年以上の歴史を誇る世界遺産姫路城が悠然と佇んでいます。第二次世界大戦で市街地の大半は焦土と化しましたが、城だけは奇跡的に燃えませんでした。その文化的価値が認められ、1993年に日本で初めての世界遺産に登録されました。

市の強み

姫路城は、築城当時の姿をほぼ完全な姿で残しています。木造建築を保存する上で最も留意する点は、火災による消失です。この遺産を後世に伝えるべく、本市ではハード面・ソフト面ともに力を入れ、総合的な防災対策に取り組んでいます。また「持続可能で強靱なまち」となるために、防災対策だけでなくSDGs推進にも積極的に取り組み、2050年までにCO2実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」宣言を行っています。

市の魅力

美しい海と山に囲まれた本市は、古くから「豊穡の地」と呼ばれ、恵まれた自然環境の中で生まれた食文化、数多くの文化財や祭り、伝統工芸、地場産業といった資源が受け継がれています。姫路市は、日本の文化と歴史を思う存分体感いただける場所です。

2026年に皆さまを本市にお迎えすることを楽しみにしております。

2027年第21回世界歴史都市会議開催都市 イスファハン市長挨拶

我々の美しい街イスファハンが、第21回世界歴史都市会議の開催都市に選ばれたことを、非常に嬉しく光栄に思っております。

長きにわたり“世界の半分”として名を馳せたイスファハンは、イランの三大王朝の都として栄えました。イスファハンの輝かしい歴史の継承は、ユネスコ世界遺産であるジェーム・モスク、イマーム広場、チェヘル・ソトゥーン宮殿の3件を含む比類なき文化遺産地区及び遺跡に反映されています。

また、イスファハン市民は、芸術的精神、卓越した職人技術、洗練されたセンスを備えており、係る資質により「ユネスコ創造都市ネットワークのクラフト&フォークアート分野」及び「世界工芸都市」という2つの名誉ある国際的称号が市にもたらされました。

このたぐいまれな歴史的、文化的、芸術的財産によって、イスファハンは、国内のみならず海外でも人気のある、イランで最も多くの旅行者が訪れる訪問地としての地位を不動のものとしています。

これらの称賛が我々の街に大いなる威厳をもたらした一方、多くの責務をも課したのです。そのため、過去何十年にもわたり、国内の主要な工業の拠点でもあるイスファハンの都市管理は、持続可能な発展を推し進めるために最大の努力を払いました。我々の目標は、市民の暮らしやすさを確実に向上させ、かけがえのない遺産を無事に未来に繋げながら、気候変動がもたらした課題と進歩を調和させることでした。この精神に則り、「我がイスファハン、生活の街」を我々の努力の指針となるモットーとしました。

この動きの中、特記すべき最近の展開は、「イラン歴史都市会議」を発足させたことです。これはイスファハンが率先して始動した事業で、イラン国内の歴史都市間のネットワークを構築し、国内の歴史的遺産を保存するため、知識の共有という土壌を育て、より緊密な協力を構築していくことを目的としています。

我々は、第21回会議がイラン及び世界の歴史都市にとって、経験を共有する貴重な場であると考え、また、力を合わせ行動し共通の困難に立ち向かうことが、持続可能で力強い我々の未来を築き上げることを可能とする唯一の手段である、と固く信じています。

ペルシャの真珠、歴史ある魅惑的な街イスファハンで、皆様をお待ちしております。